

常任委員会管外 視察研修報告

文教厚生委員会

平成24年9月24日～26日 北海道



認定こども園にじいろ

9月24日(月)～26日(水)認定こども園の先進地である北海道札幌市「認定こども園にじいろ」(市立)、新冠町「認定こども園ド・レ・ミ」(町立)、新ひだか町「認定こども園マーガレット幼稚園・保育園」(私立)の三施設を視察しました。

▼視察の目的
須恵町では平成19年から、「認定こども園アザレア幼児園」の運営を行っており、現在建築中で平成25年4月開園予定の「須恵町レインボー幼児園」についても開園して数年後には「認定こども園」として運用予定です。今回の「認定こども園」の

先進地視察により、よりよいノウハウを現在の運営はもとより、今後の施設管理や運営などに反映させる目的で行いました。

▼研修事項
①運営及び教育・保育方法の特色について
②特徴的な子育て支援・施策について
③待機児童の現状について
④今後の取り組みについて

▼特色
(1)札幌市「認定こども園にじいろ」(市立)
平成21年4月、幼保連携型の認定こども園のモデルとして開設されました。保育園は月曜～土曜日7時～18時、有料で18時～19時まで延長保育があり、希望により夕食もあります。在宅の方で、一時的に保育が必要な時は、有料で在園児と一緒に保育する一時保育制度があり、子育て支援機能が充実しています。

また、子育て支援センターを併設しており月曜～土曜日の9時～17時、子育てサロンの開設・子育て、就学相談な

どが行われており、子育て情報提供・講座の開催・講師派遣・子育てボランティア活動の支援・小、中、高生などの育児体験支援なども行われています。

更に、保護者の就業状況などの変化により、利用形態(幼稚園と保育所間で異動)が変更できる(人数制限あり)制度が設けられていました。

(2)新冠町「認定こども園ド・レ・ミ」(町立)
老人施設のお年寄り・小中児童生徒との交流や、地域の交流での芋・人参・枝豆等の体験栽培、乗馬体験、ALTによる週1時間の遊びなど地域に開かれた園の環境作りを行っています。更に、子育て



マーガレット幼稚園・保育園

支援センターを併設し、発達支援・子育て支援センターとの連携を図っています。

また、遊びを中心とした総合的な指導から、小学校への一貫した流れを作るため、小学校との教師レベルでの交流を行うなど、学校と連携した教育・保育活動の研修を行っています。

(3)新ひだか町「認定こども園マーガレット幼稚園・保育園」(私立)
広い体育館、グラウンド、中庭など、のびのび過ごせる環境で、音楽室・コンピュータ室などの施設がありました。太鼓・メロディオンの演奏や乗馬体験・マット運動など、遊びや体験を取り入れた、よりの質の高い保育教育や幼児教育を行っています。

有料ですが希望者は保育時間内に英語やピアノの授業・コンピュータを使用した教育などを受けることが出来ます。今回の視察を今後の幼児園の管理・運営などに活かしていきたいと思えます。

報告者 今村桂子

総務建設産業委員会

平成24年9月25日～27日 岩手県



えこ3センター (紫波町)

9月25日(火)～27日(木)に岩手県の3市町を訪れ視察研修を行いました。

(1)紫波町「循環型まちづくり」
初日は、紫波町の「循環型まちづくり」の取り組みについて、施策を伺うとともに意見交換を行いました。紫波町は人口約3万3千人、面積は約239km²で、須恵町の14.6倍の広さです。その自然あふれる環境で、行政と住民が協働して資源循環、環境創造のまちづくりを進めておられます。沿道にゴミが落ちてな

いことに驚きましたが「ごみポイ捨て条例」の効果のようです。

その後、「えこ3センター」でのバイオマス事業、地元木材にて建設された保育園を視察しました。

(2)釜石市「クリーンセンター」
翌26日は、釜石市に設置されている「岩手沿岸南部クリーンセンター」を視察しました。ここは岩手南部3市2町の組合で運営されているガス化溶融炉を持つ施設です。ここでは、可燃ごみ・粗大ごみ・破碎残さも含めて多様なごみを溶融処理します。溶融物は再資源化、焼却時に発電し、施設内の電力をまかない、余剰分を売電しています。

(3)大槌町「被災地視察」
午後には、釜石市の北隣に位置する大槌町を訪問し、震災復興の状況と今後の防災対策について研修しました。大槌町は東日本大震災の折、町長以下役場の幹部が皆被災し、1200人を超える町民

が海に連れて行かれたところと。岩手県内最大の被災地だそうです。役場も高台に残った小学校を改装して使用しています。街並みは消滅し、平地はすべて基礎だけを残し、雑草が茂っていました。

復興計画の概要はすでに策定され、集団移転や都市計画のもと区画整理事業を行っていく模様です。復興にかける意気込みと情熱を感じました。ただ行政の現場では、人が足りないとの訴えも伺いました。



岩手沿岸南部クリーンセンター (釜石市)

今回の研修においては、北上川から三陸沿岸までの広い範囲を移動しましたが、印象に残るのは、津波被害の大きかった。防災の重要性を再認識し、町政に活かしてまいります。

最後に、快く視察研修を受け入れていただいた皆様に感謝申し上げます。

報告者 田ノ上真